

インクルーシブデザインで 身近な不便を解決

誰かの「使いにくい」を手がかりに、新しいアイデアを生み出そう

インクルーシブデザインの考え方を活かして、誰かの「使いにくい」を手がかりに、新しいモノや仕組みを生み出してみましょう。

STEP 1 身近な「使いにくさ」を探してみよう（極端思考ワークにチャレンジ！）

記事に登場した「極端思考ワーク」を使って、ふだん便利だと思っているモノを、あえて「とことん使いづらく」してみましょう。そこから、隠れた「基準」が見えてきます。

ワークの手順	あなたの回答
① 使いやすいと思うものを選ぶ	
② どうすれば「とことん使いづらく」できるか考えよう	
③ なぜ「そうすると使いづらい」のか理由を考えよう	

学校の事務員さん・用務員さん・給食の調理員さん、または地域の高齢の方など、自分とは違う生活をしている人にインタビューしてみましょう。その人の「リアルな日常」を知ることが、インクルーシブデザインの第一歩です。

※ インタビューする前に、活動の目的と、聞いた内容を授業で共有することを伝えて、許可をもらいましょう。



インタビューした人：

① その人の「ふだんの1日」の過ごし方を聞いてみよう

② 「最近ちょっと不便に感じたこと」を聞いてみよう

③ 話を聞いて、あなたが新しく気づいたことは何ですか？

④ あなたが共感したこと、自分と「違う」ところ・「同じ」ところはどこでしたか？

● 共感したこと：

● 違うところ：

● 同じところ：

STEP 2で聞いてきた「その人の日常」を友だち同士で発表し合いましょう。異なる視点が掛け合わさることで、思いもよらないアイデアが生まれます。

Q1 友だちがインタビューした人は誰で、どんな「不便」や「困りごと」を抱えていましたか？

Q2 友だちの調査を聞いて、あなたが新しく気づいたことはありますか？

Q3 自分と友だちが見つけた「不便」。違うように見えて、実は根っこでつながっている共通点はありませんか？

Q4 「こんな仕組みがあれば、2人が話を聞いた人、両方助かるかも！」というアイデアの種を自由にメモしよう。

STEP 2でインタビューした人を「協力者さん」として迎えます。STEP 3の話し合いもヒントにしながら、その人の不便を解決する新しいモノや仕組みを考えてみましょう。

名前 アイデアの名前

しくみ どんな仕組み・形ですか？（自由にイラストを描いてもOK！）

 イラスト・メモ欄

広がり 実現すると、協力者さん以外にどんな人の助けになりそうですか？

フィードバック 協力者さんにアイデアを見せてみて、どんな意見をもらいましたか？

改善 もらった意見を踏まえて、よりよくできそうなポイントは何ですか？
